

戦争を許さない女たちのJR連絡会



いのち輝く

わたちのピーストレイン

〒141-0031 東京都品川区西五反田3-2-13 JR総連内 ☎ 03-3491-7191 JR 057-4596

最高裁にみんなの声を届けよう

えん罪の構図を断ち切ろう

私たちは、JR浦和電車区事件を支援する中で、袴田事件・布川事件・東電OL事件・北陵クリニック事件・志布志事件など、実に多くの冤罪事件があることを知りました。最近の厚生労働省・村木さんの事件では、検察官が自ら描いたストーリーに沿って犯人を逮捕・起訴し、自白を迫り、証拠の改ざんまでする検察の暴走が明らかになっています。

浦和電車区事件の場合も、警察によって事件がつくられ、無実の7名が逮捕・起訴され一審・二審で有罪判決を受けました。逮捕から8年。無実を訴えて闘いつづけている7人の将来は、最高裁がどう判断するかによって大きく左右されます。

えん罪事件で苦しむ人をこれ以上つくらないためにも、私たちは多くの人々にJR浦和電車区事件の真実を最後まで訴え続けていきたいと思います。

10/1 最高裁要請行動を行う

10月1日、「女たちの会」は美世志会の上原さんとともに11名で最高裁への第2回要請行動を行い、「JR浦和電車区事件」のえん罪性を訴えてきました。

私たちが主張したこと

- ・Y君が隠し取りしたICレコーダーは、検察側に有利なように意図的に反訳され、証拠として提出されたのが全く違った内容だった。
- ・公安警察はストーリーに沿って、講習室の見取り図まで都合の良いように改ざんして証拠としていた。
- ・Y君は被害を受けた自覚がなかった。そのため「被



7人の無実を訴え要請行動を行う「女たち」(10月1日)

害届」を書いたのは警察の人だと証言した。これは、事件が警察によって作られた証拠だ。

- ・誠心誠意捜査に協力し正直に答えた仲間が否定され、嘘をついたY君の証言のみを信用したのは理不尽。
- ・上告を棄却するかどうかが判断する前に、「小黒のブログ」をぜひ読んで、警察の狙いを知ってほしい。
- ・7人は無実にもかかわらず有罪にされたことで犯罪者と扱われ、会社からも懲戒解雇された。
- ・東労組に入って見てきた労働運動は、職場環境や働きがいを深く求め、決して人を傷つけるものではなく、人を助けるための正当な組合活動だった。



JR浦和電車区事件の
署名運動にご協力下さい



「女たちの会」はいま、最高裁第三小法廷に対し、「裁判を開き、口頭弁論による審理を行うこと」と「原判決を破棄・自判し、無罪を宣告すること」を求める署名運動を取り組んでいます。多くの皆様のご支援をお願いします。

便編
り集
部

前号で朝鮮学校無償化を求める署名を呼びかけさせていただきました。「呼びかけてくれてありがとう」「私も身近の人に声をかけます」など沢山の声が届きました。署名に協力していただいた皆様には心から感謝申し上げます。あれから6か月。やっと解決に向かう兆しが見えます。もう何もクレームをつけずに、子どもたちが平等に教育を受けられるよう、一日も早い実施を望みます。

第17回ななかまどのつどい



9月23日、札幌市エルプラザにおいて「第17回ななかまどのつどい」を開催し、組員・家族・書記の他、貨物労組北海道地本のご家族にも駆けつけていただき65名が参加しました。柏谷代表は、『このつどいは平和を考える1日として毎年続けてきました。皆さんにとって今日という日が素晴らしい1日になりますように』と挨拶し、JR北海道労組榎本執行委員長からは普段少し敬遠しがちな政治の話についてわかりやすく説明していただき、沖縄の米軍基地移転問題にも触れられ、『単に県外や国外に移すのではなく、全ての軍事基地はいらない！という考えにならなければいけない』と強く訴えられました。



督永さん（中央）とななかまどの会幹事たち

「武力では平和は訪れない」～督永忠子さん～

パキスタンに移住し、現地で女性の自立や母子保健支援活動を行っている“オバハン”こと督永忠子さんを招き、パキスタンやアフガニスタンでの支援活動について講演していただきました。さらに、過日発生したパキスタン大洪水でもいち早く現地入りをし、支援活動を行っており、支援活動の内容や被災地の様子などについても講演いただきました。若い頃、山登りで訪れたパキスタンの山の中で泣いている母親たちを見て『他人のお役に立ってこそ一人前』と亡くなるまで言い続けた父の言葉で『今の自分に何が出来るだろうか』と考え、パキスタンへ移住し、支援活動を行ってきました。督永さんは、識字率の低いパキスタンで学校を開き、女性たちに字や、他にも編み物を教え、出来た作品をマーケットで販売し、自分のお金を持つことによって女性たちが自立できるようこれまで支援してきました。そして今、平和について『子どもたちを武装勢力にしない取り組み』を行っています。『米軍に家族や大切な人を殺された人たちは反米思想になる

よう、自分のいる場所でいろいろと考えてもらいたいし、それが子どもたちの健やかなる未来の為に私たちがほんのわずかでも貢献できることだと思います』と参加者へのメッセージをいただきました。



また、洪水被害にも触れられ、今回の災害では2千万人が被災し、この内460万人の方が住むところを失ってしまいました。さらに畑も砂で埋もれてしまい、作物を育てることが出来ず、この冬パキスタンの多くの国民が飢えてしまうことになります。洪水の影響で伝染病の他に綺麗な水を使うことが出来ないために結膜炎や皮膚病が蔓延しており、浄水剤を使用して水を綺麗にしてから使うよう衛生指導をしており、今後は給水車を手配して多くの人にたくさん水を使ってもらい、体を洗うことで皮膚病の予防に繋がることを学んでもらう取り組みを行うとのことです。

私たちもお役に立てるよう当日会場で義援金の取り組みを行い、44,565円を手渡すことができました。（ななかまどの会・TN）



柏谷代表(右)がカンパを手渡ししました



©HIRUTA

し武装勢力にもなる。武装勢力になりにくくする手助けが自分に出来ることだと思うし、平和に繋がっていくと思う。武力による強制ではなく、本当の平和への道ということをいつも考えますが、押しつけではなく今自分に出来ることをする。それが平和に繋がる

御巣鷹山研修 エンジェル

エンジェルは、平和と命の尊さを学び実践しています。
今回は「エンジェル・御巣鷹山研修」(9月26日～27日)に行ってきました。

事前学習 (9月8日)

事前学習として「日本航空安全啓発センター」(羽田空港施設内)を見学しました。展示室には、機種胴体の一部、垂直尾翼、座席など見るも無残な形で残されていました。説明のビデオ、ボイスレコーダー、持ち主の分からない遺品、家族あてに書いた血痕の残るメモ、遺族の手紙などが展示されていました。何処を見ても墜落の凄さと、死を前にし家族へ宛てた無念の叫びには胸がつかまる思いでした。

御巣鷹山の尾根に (9月26日)

今年は事故から25年、道路も整備され階段と手すりがつけられて登りやすくなっていました。現在は地元の方の協力で植樹された木が伸び、登って行く道の袖にはシャクナゲが植えられていました。



途中にはアルファベットで区分された看板があり、近くには子供・家族の墓標が所々に立ち、お花、おもちゃ等が供えてありました。どんなに無念だったことでしょう。愛する人を失った家族の悲しみが墓標の一つ一つに刻みこまれているようで、せつなくなり



ました。尾根の頂上の墜落現場には、日航の乗務員の墓標があり、近くには焼け焦げて炭になっている大木の幹が残っていました。

また、ここから南東の方角に山の尾根が削られているU字溝(墜落直前に右主翼があたって削られた場所)が遠くに見え、事故の恐ろしさを実感しました。

少し下り昇魂之碑にお線香とお花をお供えし、「安全の鐘」を鳴らし520名のご冥福をみんなでお祈りしました。

上野村にある慰霊の園には空に届かんばかりの慰霊碑が建てられ、その後ろには納骨堂があり、身元の確認できない遺骨(遺品)が骨壺に納められ、その手前には亡くなられた520名の名前がぎざまわっていました。

大切な人を失った家族の悲しみは25年経っても消えることはないでしょう。そして多くの命を奪ったこの事故を決して忘れてはいけないと思いました。二度とこのような事故を繰り返さないために、安全を最優先に考えなければいけません。

(エンジェル MN)

第7回ネイチャーフェスティバル

◆ ◆ ◆ 今年も参加しました ◆ ◆ ◆

9月19日、川崎市・新鶴見操車場跡地で、第7回ネイチャーフェスティバルが開催されました。「子どもたちの未来のために、創ろう!いのちの森・守ろう!水源の森」をテーマに、今年もどんぐりの森づくり、積み木広場、鉄道模型など親子で楽しめる催し物が盛り沢山。好天に恵まれ地元住民を中心に約6千人の来場者で賑わいました。

「女たちの会」も恒例の骨付きフランクフルトの鉄板焼きを出店。評判が良く、準備した500食を早々と完売しました。



ビルマ
便り
No. 4

ビルマでは11月7日、軍事政権によって民主勢力を排除する仕組みの見せかけだけの総選挙が行われました。ますます国民の権利が侵害され混迷を深める祖国ビルマの現状を憂い、民主化を求める在日ビルマの活動家たちは、連日ビルマ大使館前で抗議行動を行いました。私たちもビルマの現実を目に向け、在日の友人と一緒にビルマ民主化への道を考えていきたいと思ひます。 編集部

軍事政権の統制下で行われた総選挙

ビルマでは軍事政権によって禁じられた行為が数えられないほどあります。そこで暮らす人々の恐怖や苦痛はビルマの国民にしか判らないものです。国民は軍事政権が公正か否かについて批評することはできません。正しいことを正しいと、正しくないことは「ノー」と、国民が強く言えないとしても、軍事政権を支持しているということではないのです。

軍事政権に反する言葉や行為をするなど強制されれば、国民は一時的にやめるかも知れません。しかし、やりたくないことを強制すれば、国民は簡単に動かないものなのだとすることを軍事政権は忘れていると思ひます。

2010年11月7日、ビルマ軍事政権は権力を維持させるための総選挙を行い、国民に賛成投票を強制しました。しかし選挙当日、ヤンゴン、マンガレー、モラミヤインなど多くの町では、家を出る人影もなく、投票所に行く人は数えるほどだったことが明らかになりました。ビルマ国民は心からの真実を軍事政権に対して見せたのです。ビルマ国内では厳しい状況の中で国民が勇気を持って行動しました。しかし、軍事政権勝利という結果は初めから明らかなのです。

そのため、イギリスやアメリカなど世界の国々

は今回の選挙や選挙結果を認めないと発表しました。

同じアジアの中の民主主義国家であり大国である日本政府にも、軍事政権の選挙や結果を認めないという明快な態度をとってほしいと願っています。(イテッサン・横浜在住)

映画紹介

「ショージとタカオ」を観て

この映画は、えん罪「布川事件」の被告とされて、29年間も獄中にいた桜井昌司(ショージ)さんと杉山卓男(タカオ)さんのドキュメンタリーです



ショージとタカオ

カメラは仮釈放の日から丹念に二人を追い続けます。長く社会から隔離された二人の社会復帰。無実を訴え再審を請求し続けた長い闘いの日々。再審公判が開始された2010年までの14年間の飾らない二人の姿が凝縮されており、支援者の多い客席の中には涙と笑いと温もりがありました。

また、布川事件がどんな事件だったかを判りやすくまとめた内容も盛り込まれていて、布川事件を知る人も知らない人も、えん罪布川事件への理解がさらに深まるでしょう。

(158分カラー、上映委員会TEL03-6273-2324)

投稿 雫を光らす

津波古藤子(神奈川県和道疾会)

ニュース原稿のごとき物言い普天間の塵にまみれる鳩降り立ちて

すり変えてなおも躰すか名ばかりのアメリカンドリーム 青き陽炎

迷彩服の向こうにもゆるる逃げ水を見えぬふりのかなしからずや

「鳩でなくサギ」と昂ぶるふるよこの弟の声たえてまさぶしも

たどなき梅雨の晴れ間の溜息に空惑わせるV字飛行雲

海の風ひそみて森の樹々ゆする高江に集う人ら明るし

沖繩の水がめ福地ダムを囲みヘリパッドの基地なしつづく

浜砂に軍配唇頭咲きみちらて 奇む心知る人もなく

米軍の基地なりしかば大嶺の竜宮神の祠も失せぬ

滑走路の青花の光そのかみのジュゴン訪い来し大嶺の海

悲しみの民族という種のあるや 榕樹は気根の雫を光らす

